

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社 プレア企画		
事業所名	グループ・ハウス およりの郷		
所在地	〒855-0874 長崎県島原市鎌田町4133番地		
自己評価作成日	平成21年10月21日	評価結果市町村受理日	平成22年1月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループ・ハウス およりの郷 では、現在、9名の入居者の方たちが共同生活を営んでおられます。この9名の方たちは、それぞれ異なった生活層をお持ちの方たちです。私たちは、入居者の皆様のホームの生活に合わせて生活して頂くのではなく、入居者の方たちの個性を尊重して、一人一人が自分らしく生活して頂ける様に支援していくことをモットーとしております。共同生活のため、ある程度の制限はありますが、出来る限り入居者の方たちが自由に、自分らしく、生き生きと暮らせることを心より応援したいと考えております。また、家族の方たちとのコミュニケーションを大切にして、家族も方たちを含めた包括的な支援を実施しています。前面に有明海を臨み、後方には普賢岳を見ることが出来る自然に恵まれた、この施設で家庭的な優しい介護を目指して、職員一同、日夜頑張っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

噴火後に住宅地として出来た団地の一角に、一般家庭と変わらない造りで、普賢岳・有明海・復興アリーナ等が見え風光明媚である。「のどか」「のんびり」「ゆったり」を理念に掲げ、利用者や職員が歌を歌いながら、猫や犬と一緒に楽しく生活している。利用者は祖母であり、職員は娘や息子として、家族としての役割ができており、まさに大家族である。施設長を始め、職員はそれぞれ得意分野を持っており、互いに理解し、スキルを活かした支援を実践している。最近では地域との交流も自然に深まり、訪問者も徐々に増えている。常に一人ひとりの利用者の事を考え、個別の支援を行い、どの様にしたら満足して頂けるか、何をしたいと考えられているか、その人に成り代わり、思案される職員の姿から、此処での生活の安心を汲み取る事が出来る。今後、利用者の状況の変化も全員の熱い思いで素晴らしい支援が期待できるホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月8日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者、スタッフが業務に取り組む心構えを基本として理念を作り上げた。	「のどか」「のんびり」「ゆったり」を理念に掲げ、明るい挨拶と笑顔を絶やす事なく接している。利用者にとって、娘や息子として、家族のように接する事で、日々普通に生活をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、地域の方たちと入居者の方々との交流に努めている。	今年度はインフルエンザの蔓延に注意する事で地域の交流を制限している。小学生が近くの公民館で餅つきをして差し入れをされたりと、来年は参加を願っている。近所の人から野菜を頂いたり、漬物を販売に来所等ホームが地域に浸透し、徐々に交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れて、介護技術の講習や認知症への理解啓蒙に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を目処として、その中で出された意見を業務に反映するように心がけている。	運営推進会議は、広域圏組合担当者・駐在所・家族・ホーム側が参加して、2ヶ月毎に開催している。参加者の意見はあまりなく、日々の活動内容・利用者の状況・行事予定等の報告に留まっており、活発な意見交換とはいえない。	運営推進会議をサービス改善の一端と考え、会議案内状(議事内容案・参加者に意見のお願い等)の工夫や、参加者メンバー(家族代表等)の人選を検討し、代表者としての役割を担っていただき、運営面に成果が反映できる会議になる事を期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が実施する研修等に出来る限り参加するようにしている。	施設長は島原半島グループホームの中心的立場であり、公的機関から講師の要請(時には職員も講師をしている)があるなど、積極的に関わりを持っており、市町村とは忌憚りの無い意見交換が出来る関係である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けた職員が「研修発表」という形式を取り職員が共通した意識が持てる様に努めている。	介護支援専門員が拘束事例の検討会を実施し、職員の研修を行い、拘束の理解に繋げている。現在帰宅願望の利用者がおられるが見守りと「これより先工事中通行止」と書いてドアに貼り、施錠しないための工夫をしている。また、利用者に見守りのお手伝いしてもらっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けた職員が「研修発表」という形式を取り職員が共通した意識が持てる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員が「研修発表」という形式を取り職員が共通した意識が持てる様に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情発生時には、話し合いの場を設け、その都度、解決出来る様にしており、その際、第三者機関の説明も行っている。	利用者は意見を言える人が多く、部屋にテレビが欲しい等、希望を言われ可能な事は取り入れている。家族にはお任せの人が多いが、ホームでの変更事項等は説明し承諾書を得ている。意見や要望に対する傾聴の姿勢は前面に出しているが、相談記録簿等の記述はない。	家族は預けているが故に言えない立場を汲み取ると、何気ない会話も大切であり、家族との対話記録簿(連絡事項・会話内容・日付・対話者・結果伝達等の記述)を作成し、全職員で検討・共有を図り、運営に反映される事を期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的ではないが、全体会議を開催してその中で意見交換を行っている。	施設長を始め、全員が和気藹々としており、和やかである。勤務場所(関連法人の施設がある)や休暇に関する希望を取り入れている。時には職員間で交流を持ちながら楽しい職場であり、離職者は殆どない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的ではないが、運営者・管理者が個別面談等を行い、相談等を受けるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が連携を取りながら、意見交換を行い常に自己研磨に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等では、他の施設の職員と積極的に話し合い、情報交換等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>インタビュー情報やアセスメント情報を基本として、その人に見合った傾聴や声掛けを行い、安心感が持てるように支援している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>インタビュー時から家族の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族・本人とよく話し合いを行い、ニーズの優先順位を決定している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホーム内の業務(洗濯・食事づくり等)を共同作業という意識を持って行い、信頼関係の構築を図っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の方の面会時等に話し合いを行い、家族も含めた包括的な支援を心がけている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方が来所された際は、快く御持て成しをして、気安く遊びに来られる雰囲気をつくり、それまでの関係が崩れないように努めている。</p>	<p>家族は来所して話をしている。時には近所の方が野菜を持ってきて、一緒に食事をしたり、犬に餌を与える事もある。また、知り合いがシルバーカーで遊びに来て1日(昼食・おやつを一緒にする)過ごす等、顔馴染みの方がゆっくり過ごせる環境を提供している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーション等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように働きかけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、何かあれば常に相談を受けることを伝えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身で意思表示が出来ない方は、家族からの情報や、日頃のソーシャル・ワークのなかで、本人の気持ちを理解できるように心がけている。	基本情報・フェイスシート・アセスメントシート等にADL(日常生活動作)等の状況や介護実践要項を記録している。職員は書類を理解すると共に、経験の長い職員からケアの伝達を受け、共有する事で、その人に合ったケアを実践している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時に家族の方からの情報を主として、本人の話を基にケア・プランを作成し、今までの生活に近い支援を心がけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が連携を取り、継続した支援を行い本人に見合った支援を常に心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や職員の意見を計画作成担当者が取りまとめケア・プランを作成すると共に、定期的にケースカンファレンスを開催して職員間の意見の交換を行っている。	本人とその家族の希望を踏まえ、アセスメントやカンファレンス会議(職員は全員参加)を行い、アイデアや希望を取り入れ、昼夜を分けた介護計画書を作成している。3ヶ月毎のモニタリングの実施と、計画に沿った個別記録を参考に、次の計画に反映しており、個別で現状に合った計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した時は、会議を開催して職員全体で課題に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネット等を活用して地域の資源の把握に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関と連絡を取り、入所後の連携構築に努めている。	入居以前のかかりつけ医の支援をしているが、遠方の場合、家族の了解を得て、近くの病院に変更していただいている。バイタルチェック表を持参して受診に同行し、適切な医療支援を実施している。必要時には家族に連絡をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を通じて、看護師との連携を深めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関と連絡を取り、入院中の現状等の把握に努め、退院時にスムーズにホームへ戻って来られるように支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化や終末期に該当する入居者は見当たらないが、今後に向けて検討して行きたい。	現在までに看取りの実施はない。利用者の状態の悪化に伴い家族に相談しているが、医療機関を希望され、時にはホームでは大変であると思い、直接医療機関にお願いされる事がある。また、ターミナルケアに関する意見交換会を実施し、職員間で、方針の共有に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練法の講座を受講した職員はいるが全員ではないため、今後は全職員の受講に向けて努力したい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練の実績はあるが、災害に対する避難訓練の実績がないため、今後、	マニュアルや連絡一覧表等の準備はあるが、昨年より入退院が多く、火災・避難訓練の実施を今年度はしていない。また、利用者の重要書類の準備はあるが、備蓄に関する準備はされていない。11月30日に自主訓練を予定している。	人命を預かる上でも、災害や火災に対する訓練は必須であり、早急に火災・災害時の昼夜を想定した訓練の実施をお願いしたい。また、持ち出し品や備品(2～3日生活できる水・食料や生活用品・携帯コンロ等)の準備を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケア・プランに基づいて、各人それぞれに見合った支援を心がけている。	介護支援専門員が社会福祉士の資格を有し、人権擁護や援助技術の研修を行い、人格の尊重を常に話している。職員も一人ひとりに合った声掛けを行い、入居者は穏やかな表情である。今後は、個人情報の利用目的や個人情報の保護に関する方針を事業所内に掲示する事に期待したい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の介護の中で、常に声かけ等を行い、本人の望む生活や介護が出来るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援者側が出来る限り、入居者のペースに合わせるように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や就寝時、入浴後の更衣時等に身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員一人一人が、楽しく食事を行う雰囲気づくりを心がけている。	食事に関しては、利用者の出来る事(テーブル拭き・配膳等)をしている。栄養士が献立を作成し、利用者の希望を聞き、美味しいものをとの考えで、アレンジしながら、普通食を職員と一緒に食べている。常に体重の変動には注意を払っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事のメニューは栄養士と連携を取り、決定し、バランスの取れた食事提供に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、出来ない部分を介助し出来る部分は自助努力に働きかけて、入居者一人一人に見合ったケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の必要な入居者の方を介護する際は、本人の自尊心を十分配慮した支援を行っている。	利用者は自立排泄が多く、居室のトイレやリハビリパンツで対応し、オムツの使用者はいない。入居以来、パターンを把握して誘導や、コールを覚えて頂き、お手伝いする事で自立した場合もあり、排泄への積極的な取り組みが窺える。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を使用したり、医療機関と連携を取り、投薬を行ったり、個人個人に見合った便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のペースに出来る限り合わせて、楽しく入浴する事を基本とした支援を行っている。	入浴は週2回以上支援している。比較のお風呂が好きな人が多く、入浴時には歌を歌う人もいる。時には介護支援専門員が入浴支援を行い、その人の状況を理解して、計画への反映に繋げている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人の習慣に出来るだけ合わせた支援を行い、安心感が持てる生活を送れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスを行わない事を第一とし、服薬後は様子観察等を行い、状態確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その個人個人に見合った役割分担を与えて、生き甲斐のある生活を送れるように心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1回を目処として、日課の中にドライブ等を取り入れて、外出の機会を確保するようにしている。	現在はインフルエンザに配慮して、ドライブ(フラワー公園等)は車中からの見物に留めている。10日に1回位のペースで、2~3回に分けて外出している。皆さん楽しみで、歌を歌ったり、お饅頭を食べながらドライブを満喫している。時には職員と外食を楽しんだり、その時にできる外出支援を実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理が出来る方は、自分で金銭管理を実施して頂き、職員は確認程度の支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等の通信の制限は、常識の範囲内で行っていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は個人の自由空間としている。リビング等は、季節の花を飾ったり、行事の写真を展示したりして、いごちの良い空間づくりに努めている。	玄関に入ると下駄箱の上にはシクラメンの鉢植えを置き、リビングは食卓やソファを置き、皆さんがゆっくり寛げるスペースである。全体的に明るく、猫や犬等の小動物が仲間として雰囲気や和らげている。リビングで食事の準備をする職員の傍らで、利用者は歌を歌いながら過ごされ、居心地の良さを表情から汲み取る事が出来る。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを設置したり、和室を利用したりして、くつろげる空間を確保している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は個人の自由空間として、安全上問題が無いものは、持込自由としている。	居室作りは、利用者により持ち込み品に関しては、大きく違っている。衣装ケース・遺影・写真等必要な品を持ち込まれている。それぞれ居室を我が家として考え、訪問時は、リビングと居室を行き来し、その人にとって寛げる場所として、支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その個々人の能力に合わせた役割分担を決めて、情緒を配慮しながら生活の活性化に努めている。		